

〔評者〕
井口保之
東京慈恵会医科大学神経内
科教授



医師として知らなければ恥ずかしい 50の臨床研究：神経編

岩田 淳 監訳

●A5 頁304 2017年4月

定価：本体3,500円＋税

[ISBN 978-4-89592-883-0]MEDSi 刊

「経験に基づく医療」から「科学的根拠に基づく医療」、臨床医学は20世紀末から21世紀にかけて大きなパラダイム・シフトを迎えている。賢者は歴史に学ぶ、この「歴史」とは多くの医科学者が積み重ねた科学的根拠と言い換えることができよう。臨床、研究、そして教育に情熱を注ぐ賢者、岩田 淳博士は此の度『医師として知らなければ恥ずかしい50の臨床研究：神経編』を監訳上梓し、我々を実臨床の大海原への旅に誘う。

表紙を開くと、原著題名「50 Studies Every Neurologist Should Know」が目にはいる。原著題名にあるNeurologistの訳語である「神経内科医」に囚われない訳者らの心遣いは、いやおうなしに読者の想像力を掻き立てる。所謂一般診療でよく遭遇する認知症、てんかん、頭痛、脳血管障害について「なるほど、我々の処方の根拠はここにある」と頷くことに気がつく。神経眼科、神経耳科領域をあえて別項で取り上げた点は、症候に注目せよと警鐘を鳴らす著者一同の狙いと感服

する。

論文紹介では、研究デザインの流れ図、主要結果をまとめた表を提示し、読者の理解は容易である。研究の仮説とエンドポイントを明白に示し、得られた結果の解釈と制限事項を詳説する。さらに著者らは、典型的な症例を提示し各論文の内容に合致した臨床的課題を読者に問いかける。読者は外来・病棟で診察する錯覚に陥りながら具体的な診療方針を立案する。著者らは判りやすく最善の選択肢を語りかけ、論文の科学的根拠に対しさらなる知見を獲得する。1990年代から始まる「科学的根拠の時代」に公表された珠玉の50編は、臨床の溟渤を旅する医師に確かなマイルストーンを示している。

表紙には白衣を着た麒麟、これは読者諸兄の鏡であろうか。「麒麟の蹟き」に遭遇する経験豊富な神経内科医のみならず、医学生、研修医、そして総合診療を志す医師に本書の御一読を心よりおすすめしたい。